

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227

広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781

<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成15年2月(2003年) No. 446

お元気な顔が揃いまずは新年の祝杯 新年会(兼総会)に27名が出席

今年の新年会は例年同様、法善寺横町の「さと」で1月19日18時より、総会を兼ねて開催されました。会員27名を集めて盛会でしたが、例会にはほとんど出席のない方でも、この新年会だけは出席するという会員さんもあり、新旧会員同士のふれあいの場となりました。総会も合原会長司会のもと順調にコトが運び、新しい世話役に吉岡貞夫氏が推薦されました。

世話役の役割分担も決まり1月例会から早速新しい分担で会が進行されます。映写はプロジェクター方式に替わりましたので、上映担当(機械係)には慣れるまで大変でしょうがよろしくお願いします。

総会に引続き新年会に入り、鍋料理を囲みながら、和気あいあいの楽しいひとときを過ごしました。

終了後は近くの喫茶店「青山」でさらに懇親の集いに大半の人が集まり、ビデオ談義に花を咲かせました。

丹波篠山ビデオコンテストに安居夫妻が入賞

第14回丹波篠山ビデオ大賞コンテストに、安居利次さんが「鹿と人と」を出品され入選、同じく安居良枝さんが「あそび縁日」を出品されて佳作に入賞されました。おめでとうございます。今年も昨年に引き続き、安居夫妻の活躍の年となりそうです。

今年も全国から募集される各種コンテストが開催されますので、会員諸氏もぜひ応募されて「力だめし」を試みられたら如何でしょうか。

2月例会のお知らせ

2月例会は、梅田の大阪駅前第2ビル5階、大阪市立総合生涯学習センターにて、第4土曜日22日18時より開催します。作品もどしどしお持ち下さい。皆様のご参集を楽しみにお待ちしております。

■5月例会日変更のお知らせ

5月24～25日の両日、日本アマチュア映像作家連盟の総会がありますので、止むなく例会日を5月31日に変更します。

■S-VHSデッキのオークションは

3万円で江藤さんが落札

1月例会で不用になったS-VHSビデオデッキのオークションで、数名の希望者が出たが、江藤さんが3万円で目出度く落札された。今ではほとんど買えないほどの機能の充実したデッキなので大切に使用してほしい。

■第12回日本を縦断する映像発表会は好評にて無事終了

今回は「母」を発表された東京の児島範昭氏が川上勝悟事務局長と共に初来阪、会員紹介の際、川上氏より紹介された。OMCの上総氏と有村氏の作品と共に児島氏の「母」はさすがに見応えのある大作で、3分28秒という時間の長さを感じさせないものがあった。なおこの作品は第5稿目の最新作で、玄光社からDVDとして販売されている「母」とは少し違うとのことだった（懇親会での話）。

■映像発表会会場確保の悲哀

映像発表会の会場として250～300名ほど入る適当な会場を探しているが、帯に短かし、たすきに長しで、なかなか安くて便利がよくて広さもぴったりといいところがなかなか見つからない。いつも阿倍野市民学習センターの講堂を借りているが、春と秋は各種グループの発表会が目白押しで特に土日は部屋取りが難しい。第13回日本を縦断する映像発表会を5月第5土曜日に予定し、安居さんご夫婦と吉岡さんと私、合原とが4人がかりで抽選にのぞんだが、4人ともくじ運悪く会場の確保が出来ず、来月にかけることになった。3月1日の抽選日は6月分の申し込みなので、発表シーズンをやはずれているのでは何とかいけるのではないかと希望的観測である。大阪市も安くいい会場を何とかしてほしいものである。

1月例会のレポート

1月例会は梅田の大阪駅前第2ビル5階

の大阪市立総合生涯学習センターにて開催された。今のところ、夜の部の研修会場利用者はほとんど無く、音の漏れるのを気にせず例会が進められ、ほっとした。

1月例会には、例会にほとんどお顔を見せられない岩井二郎さんと田中正文さんのお元気な姿があった。OMCを見捨てることなく、こうして例会に来て頂くことがうれしい。玉井さんは出席予定のところ急用で来られなくなったと残念そうだった。金子さんはご病気も快方へ向かっていると聞く。早くお元気な姿を見せて欲しいものだ。

今月の司会は関氏、書記・合原氏、デッキ係に吉岡、増池の両氏、受付兼照明係に奥、渡辺の両氏の担当で会を進行した。

■出席者：有村、岩井、今井、江藤、江村、入澤、奥、岡本、上総、河合、合原、進藤、田中、藤原、華岡、前田、松本、増池、関、森口、森田、森下、森、宮崎、渡辺、吉岡以上26氏のほかに見学者1名（島田氏）。

■上映（今月の講評は合原会長が担当）

1. 花と彫刻展パート3

増池 茂さん 6分15秒

10月研究会の「花と彫刻展」、同例会での「花と彫刻展パーツ2」と同じく、鞆公園での花と彫刻展を描いたもの。前作が、三脚を低く構えて地上40cmの高さから見た視点で撮影されたカットで構成したのに対し、今回は普通の目線をとったもの。

しかしスライド的な固定カットが多く動きがないため単調な強調になってしまった。何を主に表現したいか、構成したいか、訴えたいか、作者のねらいをはっきりさせた作品づくりを心掛けてほしいものである。しかし画面はきれいに撮れていた。

2. 迎春奉納獅子舞

岡本至弘さん 6分12秒

和歌山県上富田町、作者の実家のあるところだが、この近くで毎年お正月に演ぜられる「しし舞」の様子を撮影されたもの。

解説が無いので、いわれとか、伝統行事としての位置づけとか不明だが、雰囲気としては伝わってくる。こういう作品は、馬頭観世音さんの正月風景として、境内全体を紹介した後に、獅子舞をクライマックスに盛り上げるというテもあるだろう。獅子舞だけに絞るなら、解説付きか、或いは、映像的にアップを主体に動きを美しく表現す

るとい構成が考えられる。いずれにしても近くで撮影されているので、いいカットが多く撮影されていた。

3. 彫る 有村 博さん 20分00秒

那須さんがこの分野の題材を発表されているが、有村さんは那須さんが撮影した仏師とは別の「水戸岡伯翠先生」を撮影されたもの。昨年から力を入れて取り組んでこられた大作で、作者の20分という長い作品は近年記憶にない。もっとも8ミリ映画時代のドキュメンタリー作品には15～20分という長さは普通であった。やはり本格的なドキュメンタリー作品は15～20分はないと奥行きのある作品には無理のようである。久方ぶりに川畑前々会長時代からのOMC 伝統のドキュメンタリー作品にふれた思いで感激である。まだ初稿であり荒削りのところがあり、こまかいところで色々意見がでたが、恐らくこれらの声を参考に、より立派な作品に仕上げられるであろうことを期待して止まない。

4. 大山名水紀行

森口吉正さん 8分40秒

再編集されたものを再上映であるが、先月のOMC ニュースで有村氏より指摘された点をそのまま受け入れて手直し持参されたもの。題名も変わった。

手直しされただけあって判りやすくなり、実によく来た。この分野の作品では森口さんはOMCでの第一人者としての地位を確実にされたようだ。

5. 三島池の季節

進藤信男さん 10分56秒

滋賀県伊吹山山麓にある「三島池」には毎秋、渡り鳥が多数やってくる。池でのんびり遊ぶ鳥たちの姿が丁寧に撮影されているが、正直いって10分間、同じような画面を見ているのはしんどい。10倍ズームに望遠1.4倍を付けて撮影しても距離があるので、あの程度の大きさしか撮れないのだという。三島池では鳥のアップは困難としたら、周辺の情景描写とか、餌をやっている人の表情とか、構成の仕方を変えたらどうであろうか。地元の人に、鳥が来るようになったいきさつとか、鳥への思いとか、インタビューで話してもらおうのも一つの手ではないかと思う。昆陽池で撮った鳥のアップを挿入したらバレルかなあ？

6. ろくやおん（鹿野苑）

関 剛さん 6分55秒

大阪ビデオクラブ（OVC）奈良撮影会で撮影されたカットを中心にして関さん流に構成されたもので、さすがに随所に映像的な印象に残るカットがあった。鹿の角切りでのタイコの音と、雄鹿の争いの場面とを重ねて盛り上がりを作られているのは効果が出ていた。ただ、鹿の角切りと舞楽とを重ね合わせた画面構成には少し違和感を持ったのは私だけだったろうか。

7. 十石船と寺田屋

入澤直樹さん 9分57秒

先月入会されたばかりの新人の初出品作である。デジタルHi8という珍しいシステムのカメラで撮影された作品で、カメラ持参で上映された。ときどき画面がストップしてとまる、というトラブルが発生したが、原因はよく判らない。作品はナレーション入りで克明に撮影されており、カメラの振り過ぎなどを注意されたら、一作ごとに上達されるに違いない。

8. 大河アマゾン紀行

上総修一郎さん 15分33秒

上総さんならではのスケールの大きな作品内容である。世界一の大河アマゾンで、船で遡る。その船上より密林の様子などを撮影されているが、同じような風景で変化に乏しいので15分の長さはつらい。それでも延々と続くアマゾンの風景のほんの一部に過ぎないのだろう。長く続くものをいかに手際よく凝縮させて表現するか、これが映像づくりの永遠のテーマかも知れない。

9. 雪 譜

江村一郎さん 3分05秒

びわ湖あたりの雪降る風景、鳥のいる風景を姫神の曲の一部を用いて構成された。如何にも江村さんらしい纏め方だが、正直いって、江村さんにしては突込みが足りないようだ。画が不足しているのかも知れない。作品のねらいを明確にして、もう一度挑戦して欲しい。まだ雪は降ると思う。

10. 町中疾走

吉岡貞夫さん 8分30秒

岸和田祭りの本番の日は、人出が多くて撮影困難ということで、その一週間前の試験曳きの日に撮られたもの。それでも相当

の人出で、撮影にも苦勞された由。試験曳きのため、リラックスした表情もあり、結構迫力がある映像が撮れていた。大工方の地車上で舞いの競演がクライマックスであった。

11. 清流廻行

河合源七郎さん 5分31秒

四万十川の上流で、源流を求めて歩き、岩の間から水の流れ落ちるところが源流としての終点のようであった。途中、女性がノートに登山記録をして上がっていくが、その女性の手は手ぶらでリュック一つなく登山記録をしていくような場所にしては少し不自然かな、と思ったりした。こういう作品は、クライマックスをどう表現するかが、むずかしい。特定の登場人物が居れば山場も作りやすいが、風景だけでは難しい。作り易いのは逆コースで源流から大河へ、といった構成である。しかし苦勞して清流を廻行して撮られたのだらうなあと、河合さんの熱意には敬服する。

12. スコータイ遺跡

森田光春さん 8分43秒

タイの仏教遺跡「スコータイ」を撮影されてこられた。なかなか美しい遺跡のようである。もっと腰を据えてゆっくり見たいものだ。いい題材なだけに、作品づくりの点ではいろいろと注文もでてる。まず①ナレーションはもっとゆっくり読むこと。②ナレーションのところは BGM や現地音はもっと絞ること（ナレーションが聞こえにくい）。③できるだけ歌詞のない BGM を選曲すること。④ズームの始まり直後にカット替わりなどが目立つ、丁寧な編集を心掛けること等々。しかしいつもユニークな森田作品、今後大いに楽しみである。

以上で例会を終わり、喫茶組とお酒組とに別れて散会した。

■コラム

「東京ちょっと見」 安居 良枝

編集者の前田様からメールが入り、今月は記事が少ないので何か書いて欲しいといわれます。それではというので、おのぼりさんの「東京ちょっと見」を書いてみました。

東京駅前に昨年秋、丸ビルができました。覗こうと思ったのですが、11時の開店まで1時間はあります。時間つぶしと言えば

怒られますが、懐かしいので修学旅行以来の二重橋を見に行きました。昭和39年に新しいのと架け替えられたといいますが、前と印象は同じです。

警備の人の話では、めがね橋と言われる石橋は二重橋ではなく、その奥の鉄橋が本当の二重橋だということです。へえーと感心して帰ってから周囲の人に得意げにしゃべりまくりました。念のため主人がHPで調べたら、もともとは江戸時代、鉄橋は木製で堀が深いので下に人が通らない橋を架けその上に通路の橋を乗せたので上下二重に見えるところから、二重橋といわれたとありそれが真相のようです。

しかし現在では前の石橋を二重橋といい、バスガイドさんも石橋をさして「あれが有名な二重橋です」。これで通っているのです。後ろの鉄橋が二重橋となれば、かなりの混乱と第一記念写真に困ってしまいます。本当は・・・としゃべっても意味がなかったようです。

戻ってきたら丸ビルが開いていました。35階のレストラン街に行き食事しました。丁度窓の下が皇居です。びっくりするようなすばらしい展望です。二重橋もみえます。東宮御所もみえます。ふと窓枠に書かれた文字に目をやると撮影厳禁、ため息。

このレストラン街ちょっと変、小さな入り口だけが開いていてどの店もなかの様子はわかりません。通路の両側は全部壁、大阪だったら店の様子を開放的に見せるのに、……

お昼というのにどの店もみんな高い。なのに一杯、並んでいるのです。入っている人の半分は私たちのようなおのぼりさん、「丸ビルで食事してきてん」と話するために一世一代奮発しているのでしょうか。しんどいことです。

夕食は新大阪で、550円のきつねとたぬきを食べました。

さすが食い倒れ大阪、味は大阪の勝でした。

■今月のインターネット作品

関 剛さん作品「鹿野苑(ろくやおん)」です。

■インターネット情報

ネット版ニュースをご覧ください。